

# 第 5 章

## 環境影響要因の把握



## 第5章 環境影響要因の把握

### 5. 1 環境影響要因の抽出

事業の実施により、環境に影響を及ぼすおそれのある要因は以下のとおりである。

#### 5. 1. 1 工事の実施に係る環境影響要因

対象事業による環境影響は、工事中（準備工事、基礎工事、鉄塔組立工事等）の影響として、以下の事業特性を抽出した。

##### 1. 工事用資材等の搬入出による影響

- ・ 工事用車両等の運行
- ・ ヘリコプターによる運搬

##### 2. 建設機械の稼働による影響

- ・ 建設機械の稼働

##### 3. 造成等の施工による影響

- ・ 鉄塔用地、鉄塔周辺工事用地、仮設備用地の伐採
- ・ 仮設備の設置（索道、モノレール等）
- ・ 鉄塔基礎設置部の掘削
- ・ ヘリコプターによる延線

#### 5. 1. 2 工作物の存在に係る環境影響要因

対象事業による環境影響は、工作物の存在による影響として、以下の事業特性を抽出した。

##### 1. 送電線路の存在による影響

- ・ 鉄塔・電線の存在
- ・ 保安伐採
- ・ ヘリコプターによる巡視



## 5. 2 環境要素の抽出

環境影響要因と環境要素の区分は表5.2-1のとおりである。

表 5.2-1 環境影響要因と環境要素の区分

環境要素の区分	環境影響要因の区分	工事の実施	工作物の存在
環境の自然的構成要素の良好な状態の保持のため調査、予測及び評価されるべき項目	大気汚染	○	
	悪 臭		
	騒 音	○	○
	低周波音	○	
	振 動	○	
	水質汚濁	○	
	水 象		
	地盤沈下		
	土壌汚染		
	地形・地質		
	日照阻害		
生物の多様性の確保及び自然環境の体系的保全のため調査、予測及び評価されるべき項目	植 物	○	○
	動 物	○	○
	生態系	○	○
人と自然との豊かな触れ合いの確保のため調査、予測及び評価されるべき項目	景観・風景		○
	人と自然との触れ合いの活動の場		
環境への負荷の量の低減のため調査、予測及び評価されるべき項目	廃棄物・発生土	○	
	大気汚染物質・水質汚濁物質		
	温室効果ガス等		
一般環境中の放射性物質について調査、予測及び評価されるべき項目	放射線の量		

